それなりに上手くいっていた人生でした。

怠けMONO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
それなりに上手くいっていた人生でした。

【Ｎコード】
Ｎ１１５９Ｙ

【作者名】
怠けＭＯＮＯ

【あらすじ】
目を覚ますと、そこには男の娘がいました。
それなりに満足していた人生をやり直すことになった主人公が、新しい人生を楽しく過ごそうと頑張ります。
＊原作を知らずに、衝動的に書き始めた駄文です。

第一話（前書き）

どうも初めまして、駄文ですがよろしくお願いします。

第一話

それなりに上手くいっていた人生でした。

わりと勉強ができ、平均より高い運動能力をもち、多くの友達ができ、楽しい人生でした。

大学に進学し、やっと明日から２０歳になると感傷に浸りながら眠りについたはずでした。

・・・ここはどこですか？

目を覚ますと、体は動かない、頭は熱くて痛い、声は出ない、ないない尽くしでした。

それでもあまりの辛さにジタバタしていると、扉の開く音と誰かの足音が聞こえました。

音のした方を霞んだ視界に収めると、そこには長い黒髪の美人らしき人が見えました。

あなたは？と声を発しようにも声が出ず、近寄ってきた人に抱きかかえられると疑問に思ったことがあります。

抱きかかえられる？

２０にもなる大人が？

そんな疑問を余所に、その女性は私を抱きかかえるなり車に乗せ、近くの病院へと直行し、私は流されるまま待合室に座り、お医者様に見てもらい、薬をもらって再び家に帰って、寝かせられました。

その間、女性は私に向かって「大丈夫？」「どこが悪いか言える？」など心配そうに尋ねてきましたが、私の熟練のその場に合わせて流す技術により問題ありませんでした。

その後、お粥を食べさせてもらい、薬を飲んで寝てしまいました。

次の日、カーテンの隙間から日差しが差し込み、スズメが鳴いており、まさに絵に描いたようないい天気だなぁと思いながら目を覚ましました。

薬が効いたようで随分楽になり、周りのことをきちんと認識できるようになりました。

私はふと目についた鏡を這いつくばって取って見ると、そこには白髪が肩ぐらいにまで伸びた目の赤い男の娘が映っていました。

・・・誰やねん

いやぁ、どうやら私はまだ夢の中のようです。

えぇ、あんな男の娘なんているはずがない。まして自分は自他ともに認める三枚目でしたので、そんなはずがあってたまるものか！

こういう時はお約束通り、寝れば夢から覚めるのです！

ほっぺは抓りませんよ。現実逃避ではないのです！

これは戦略的撤退なのです！　↑？

しかし、あんなのが実際にいたらホルモンバランスが相当崩壊しているんでしょうね、あはははは～。

と再びベッドに入り、目を覚まそうとした時、部屋の外から足音が近づいてきました。その誰かは部屋の扉を開けるなり、

「緋音（あかね）大丈夫？」

「緋音（あかね）生きてるか？」

とこちらに尋ねてきました。

えぇい！邪魔するでないわぁー！

私は大人へと変身する（２０歳になる）ために起きるんじゃー！

心の中でシャウトしながら、もう一度寝ようと試みました。

「起きられるようになったか？」
「よかった、昨日急に熱を出したから心配したのよ？せっかくの３歳の誕生日だったのに、残念ね。」

へぇー、そうなんですか。それじゃ、って乱暴に撫でないで下さいよ！痛いじゃないですか！
そんな態度が顔にでていたのか男の方は苦笑しながら手を引込め、女性と一緒に部屋を出ていこうとします。

「じゃあ、後でお粥とお薬持ってくるわね。」

はいはいわかりましたよ、お母様～。

そして、二人が部屋から出ていき、扉が閉まると私は天井を仰ぎ、理解してしまったために自然とため息を吐いてしまいました。

現実か・・・・ｏｒｚ

第一話（後書き）

ありがとうございました。

第二話

どうも！白峰緋音でッス！

いやぁ～あれからは大変でしたよ。

（認めたくない）現状理解から始まり、この体に残っていた記憶を思い出しながら、日々を何とか過ごしてきましたよ。

アルビノというハンデを抱えていましたが、そこは元大人の精神のため、物静かに読書を嗜んでいました。

外に出るときは、サングラスをかけ、日傘を差し、肌を出さないようにしたりするのは大変でしたが特に問題はありませんでした。

両親が悪ふざけでゴスロリの女装を強制したり、知り合いを呼んで撮影会を始めたり、外に出たとき男の子に男女とからかわれて、両親が切れた上にその子の親まで怒り出し、なぜか私がその子を弁護する羽目になったり―（その子とは親友になりました）・・・・・・

問題はありませんでした！

でも、不思議の塊みたいな私が言うのもなんですが、日本ってこんなに不思議なとこでしたっけ？

ドでかい西洋を思わせる町に始まり、あっちこっちを見れば髪の色がレッド、ピンク、ブルー、ブラウン・・・・・・

さらには、あっという間に絡んできた不良を鎮圧するダンディー―

（ですめがね？とか恐れられていました）がいるわ、コンビニの近くで古い制服をきた何だか生気の薄そうな女の子を見かけたり、ギネスをはるかに超えるであろうでっかい木（ばんとうとかいうらしいです）に図書館島とかあったりと前世―（？）とのあまりの違いに自分が変なのかと悩んだりもしました。

そこで色々と気心の知れた心友―（レベルアップ！）に話してみると、顔が笑っているのですが、微妙に汗をかいた表情で、

「だ、大丈夫だよ！」

と何が大丈夫なのか全く分かりませんでしたが、その必死さに免じて今回は見逃してあげましょう。

・・・そのため息は何ですか？

第二話（後書き）

ありがとうございました。

第三話

私も今日から小学生！

そして、今日は入学式！

小っちゃい子が溢れかえり、泣き喚き、先生方が大きな声でなんとかまとめようとしていますが・・・・

うん、カオスですね！

この中に混じっていかなきゃと思うとため息がでそうですが我慢我慢。

すると隣からため息が聞こえてきました。

おやおや、そんな人生に疲れたおっさんがするようなため息をするのはどこの誰ぞ？と興味を持ってそちらを見ますと、そこには・・・・

人生に疲れた雰囲気の美幼女がおりました。

すごいですね、傍から見ていてすぐわかるくらい疲れていますよこの幼女。

眼鏡をかけており、長い赤髪を後ろで括り、これから入学する麻帆良小学校の制服に身に着けた幼女は、どんよりって表現が相応しいくらい沈んでいました。

そのまま観察していると、その幼女がこちらの視線に気づきました。

「何だよ、人のことじろじろ見て？」

おおっと、なんかピリピリしてますよこの幼女。

とりあえず、あたりさわりのない挨拶でもしましょう。

いや～、初めまして。こんにちは。隣から妙に疲れたため息が聞こえたもんで、気になっちゃったんです～。

「誰が幼女だ！って、そんなことより、わ、私って変なのか？」

あれ？なんか怒った上に、ビクビクしだしちゃいましたよ？

これは不味い！

何が不味いって私は体は男の娘ですが、精神は元大人！　↑重要

そう、つまり私は紳士（笑）！紳士（笑）であるべきなのです！

いやいや、何をおっしゃいますかウサギさん。あなたのような美幼女は中々いませんよ？（あれ？そういやこの土地美人多くね？）もっと自分に自信を持ってください。ね？（サングラスを外して、スマイル～♪）

「あ、ああ。ありがとう・・・／／／」

ふう、どうやらごまかせたようですね。なんか顔がちょっと赤くなっちゃいましたけど、周りの男子も何人か赤くなってますけど、無問題！

「な、なぁ、よかったら式の後で話しないか？」

もちろんですとも！あ、でも私の友達も一緒でいいですか？今いませんけど、後で合流するんです。

「ん・・・、まぁ、いいよ・・・」

よし、ちょっと不安そうですが大丈夫でしょう。さて、式も始まるようですし、きちんと座っていましょう！

さすがに、ぬらりひょんが実在したのには驚きを隠せませんでした。

後、幼女に懐かれました。

第三話（後書き）

ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1159y/

それなりに上手くいっていた人生でした。

2011年11月1日04時38分発行